

第 6 回 北川流域委員会 議事骨子

平成 20 年 6 月 16 日 (月) 敦賀市福祉総合センター「あいあいプラザ」において第 6 回北川流域委員会が開催されました。

本委員会では、これまでの北川流域委員会において委員より発言のあった質問事項や疑問点について、河川管理者より説明がなされました。

内 容

これまでにいただいた質問や疑問点についての説明

質疑応答

説明に対する質疑応答については、つぎのとおりです。

委員からの主な発言

環境への影響などのダムのデメリットや、それに対して実施する調査・対策について、住民などにもしっかりと説明してほしい。

ダムについては、工事中および完成後においても水質と水量が保たれるよう配慮してほしい。

河床の上昇には山の管理が影響しているのではないか。また、本委員会において森林の管理などについても議論してはどうか。

上流の滋賀県内にある採石場など、管轄外であっても北川への影響が懸念されるものについては議論の対象としてはどうか。

「北川自然再生計画」において、北川の目標が昭和 30 年代前半に設定された根拠を示してほしい。

北川の将来を考える上では、行政の管轄に縛られず、流域全体で対応する仕組みづくりを考えていくことにより、より有効に機能していくと思う。

北川は晴天時の穏やかな流れを見て日本有数の清流と評価されているが、雨天時の濁りは特に酷いため、雨天時も含めた管理手法を考える必要があると思う。委員会での質問事項に対する説明については、一度にすべてを行うのではなく、何回かに分けて説明するなど、よりわかりやすい方法等の配慮をしてほしい。